

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	Roselle Friendship				公表日	2025年2月14日
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		一階と二階を合わせて100m <sup>2</sup> 以上のスペースを確保しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		常時2名以上の児童指導員や支援員が配置されています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		手すりの設置や各フロアの段差を無くすなどバリアフリー化を図っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		支援前、支援後の清掃、アルコール除菌を行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		一階と二階で支援内容を分けたり、個別の部屋で活動できるようにしています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		毎月の支援会議にスタッフ全てが参加するように計画しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		いただいた評価を元に改善しております。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎日の振り返り、情報共有、会議を開催し、業務改善を図っています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		第三者委員会の評価、アドバイスの元、業務改善を行なっています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		毎年の各種研修、OJT研修資料や外部の研修に積極的に参加することにより確保しています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		毎週、異なった支援プログラムを作成し、個々の特性に合わせた支援を行なっています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		毎月の支援計画の作成、その後の経過などで定期的に保護者の方、関係機関と連携を図り、計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		毎回の会議では全てのスタッフ(管理者、児童指導員、支援員)が参加し検討をしています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		個々の児童の毎回の利用に合わせ、支援内容が共有され、支援プログラムを実施しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		毎日の支援内容、適応行動の状況、行動観察を個別で記録し、その情報共有を全てのスタッフが行なっています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		個別支援計画書の中を含め、設定し支援が計画されています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		全てのスタッフで行うことでチームで立案し行なっています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		毎週異なった支援プログラムで活動することにより、固定化しない様工夫しています。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		個別での支援と、協調性、集団行動での活動を行うことにより支援がなされています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		毎日、その日の児童の支援や活動を確認し行うための会議を行なっています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		個別での日誌や業務記録、報告等により、毎日情報共有を行なっています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		毎日の支援を必ず記録に残し、支援プログラムや支援計画の作成の際に改善できる様になっています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的な訪問や面談、電話での聞き取りでモニタリングを行い必要な支援やサービスについて検討しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		管理者、児童発達管理責任者、児童指導員等、実際に支援に携わるスタッフが参加し参画しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		協力医療協定を結び、福祉課や相談支援事業所等の各種関係機関と連携して支援を行なっています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		担任の先生と毎回顔を合わせ、体調等を確認し受け渡しを行なってきました。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		情報共有できる体制を整えています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4		児童発達支援センターと連携を図り、児童の支援におけるアドバイスをいただいています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4		支援プログラムの他に、地域の児童館や図書館、公園などを積極的に活用し活動しています。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		毎日の送迎時や連絡ノート、定期的な面談の機会を通じて共通理解を持って支援しています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		昨年度はご家族様や兄弟児が参加できる保護者会を開催し、情報提供の機会等が行われました。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時だけでなく、支援計画の同意の際などに丁寧な説明を行なっています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		アセスメント、モニタリングを行い確認しています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		十分な説明を行い同意を得ています。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		訪問や電話での聞き取りを定期的に行うことによって実施しています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		昨年度はご家族様や兄弟児が参加できる保護者会を開催し多くの方に参加して頂きました。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情窓口、解決窓口を設置することにより対応しています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		活動記録を保護者様に配信したり、ホームページを設けることにより行なっています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の保管は鍵付きの書庫を用いて保管し、毎日施錠しています。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		丁寧な聞き取りや対応により配慮しています。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		定期的に地域の講師の方に支援に参加してもらう等、開かれた事業運営を図っています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		ガイドラインを遵守し、各種マニュアルを作成し、保護者の方に共有、訓練等を行なっています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		業務継続計画（BCP）を策定、訓練を毎年行っています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		保護者様より既往歴、現在の服薬、アレルギー情報などを確認し、支援しています。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		保護者様より既往歴、現在の服薬、アレルギー情報などを確認し、支援しています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		安全計画を作成し、研修と訓練を行っています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		各種マニュアルを作成し、情報共有しています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハット会議を定期的に行い、再発防止に努めています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		毎年、また新入社員には必ず、虐待防止、身体拘束適正化の研修を行い適切な対応ができるようにしています。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		保護者様に説明、同意を得た上でサービス計画に記載し支援しています。	